

みなとオアシス知夫里島 “隠岐ユネスコ世界ジオパーク”

別紙-3

隠岐ユネスコ世界ジオパークは、島根半島の北40～80kmの日本海に点在する4つの有人島と多数の無人島によって構成されており、下記に示す境界線の内側をその範囲としています。離島という環境と海洋生物や漁業などの人の営みも重要であると考え、陸域だけではなく海岸から1kmの海域もあわせた673.5km²（陸域346.0km²、海域327.5km²）をジオパークの範囲としています。

隠岐諸島は、時代によってその姿を“七変化”させてきた歴史があります。ユーラシア大陸と一体だった時代、湖の底だった時代、深い海底にあった時代、火山活動によって隆起した時代、そして島根半島と陸続きになった時代、離島となった現在。このような成り立ちを経たからこそ、世界的にも珍しい、南方性、北方性、大陸性、固有種が混在する不思議な生態系を有することや旧石器時代から石器の材料として用いられ、隠岐の成り立ちに由来する岩石「黒曜石」の原産地であるなど、隠岐ならではの歴史・自然・文化が、連続性を持って存在しています。

「みなとオアシス知夫里島」では、ユネスコ世界ジオパークのインフォメーションセンターとなるよう、来居港フェリーターミナル2階に隠岐ユネスコ世界ジオパークの展示施設を設置しています。

※ ジオパークとは・・・

「地球・大地（ジオ: Geo）」と「公園（パーク: Park）」を組み合わせた言葉で、「大地の公園」を意味し、地球（ジオ）を学び、丸ごと楽しむことができる場所をいいます。ユネスコ世界ジオパークとは、ユネスコの定める基準に基づいて認定された高品質のジオパークで、日本に8地域あります。



知夫赤壁



知夫里島の西岸に続く断崖絶壁の一部に鮮やかな赤い岩からなる崖があります。

近くに火口があったこと、その噴火の性質から、さまざまな色と模様の刻まれた赤壁は隠岐の中でも特に美しい海岸のひとつと、国の名勝となっている。

赤ハゲ山

赤ハゲ山周辺に残る石垣は、1970年頃までおこなわれていた牧畑と呼ばれる農法において土地を区切る役割を果たしていました。隠岐の牧畑は、平地が少なく、痩せた土地を有効的に活用するために考案された農法です。

オキタンポポ

オキタンポポは身近に見られる「隠岐でしか見られない種」のひとつです。日本の在来タンポポの一種で最近ではセイヨウタンポポなどの外来種が島内に増えつつあり、外来種駆除やオキタンポポ分布調査が行われています。

隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会

〒685-8601

島根県隠岐郡隠岐の島町港町塩口24

E-mail: info@oki-geopark.jp

Tel: 08512-3-1321 Fax: 08512-3-1322

HP: <http://www.oki-geopark.jp/>